

令和4年度事業報告

1. 事業部門(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

新型コロナウイルス感染症が確認されて3年余り、今後の新型コロナウイルス感染症への対応については、「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」に位置づけることとなり、これまでの法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、個人の自主的を基本とする対応に転換することになりました。

このような社会的な背景から、弊財団の令和4年度の事業運営では、公益目的事業の研究事業助成及び教育研修事業等並びに収益事業（季刊誌の発行）のマスタープランに沿って執行しております。然しながら、新型コロナウイルス感染症が減少傾向にあるものの一部の公益目的事業や各種の教育研修事業や会議等に事業の変遷が余儀なくされています。

年度会計において、公益目的事業はプラス 877, 904 円、収益事業はプラス 561, 159 円、法人会計ではプラス 1, 545, 753 円の黒字で終了しております。主な要因として、収支面では株式の配当収入増加、研究事業助成の助成金額は減少したものの、教育研修事業では研修受講者が緩やかに増加傾向にあります、このことが3会計部門での黒字の要因として挙げられます。

また、通期の収入面においては、市場のマーケット環境においては日米の金利差や円安・米ドル高といった為替の変動が著しい中ではありますが、資産運用検討委員会で検討の基、4億円の債権運用組み入れを行うことができました。

今後は公益目的事業の継続性と財務基盤の充実を図るとともに収支面のバランスシートを確実なものとして実施するに当たり、基本財産運用収益金、株式配当金並びに寄附金収入により、事業計画（公益目的事業の教育研修事業等）や支援助成事業の執行並びに公益性を以って事業の計画を実行いたしたく考察いたします。

弊財団は設立32周年を迎え、新たな在宅ケアの推進、啓発活動に取り組み、更なる社会貢献を目指していくべく事業の推進を図ると共に企業との協業による体制の構築を目指し、実のある支援を図ってまいり所存であります。

今後の見通しとしては、ウィズコロナを迎え共存・共生を図りながら、経済情勢又は地政学的リスクが発生する中ではありますが、新たな公益目的事業の医療、介護、福祉の分野から課題の取組を模索しながら、多様化するニーズを捉え今後の将来に向けた事業の展開を図ってまいります。

[1]公益目的事業

イ. 研究事業助成事業 (公1:在宅ケアに関する研究及び事業に対する助成事業)

在宅ケア推進の一環として、研究助成・事業助成を行い、もって国民医療・福祉の向上に寄与するものであり、基本的には、在宅での医療機器、福祉用具を使用する研究及び事業であります。

1)研究・事業助成事業

●1. 令和4年度選考委員会(第1回) Web 会議

決議日	令和4年2月9日(水)
開催方法	Web 会議(配信場所:フランスベッドホールディングス株式会社6階大会議室)
選考委員	北條 慶一・千野 直一・堀 勝洋(Web 出席) 内田 恵美子(Web 出席)・丸山 美知子(Web 出席)・角田 亘(Web 出席)
厚生労働省	(厚生労働省)医療関連サービス室長 古田 章(Web 出席)
フランスベッド財団	(会長)松谷有希雄・(理事長)池田茂・(選考担当理事)田原啓佐 (常務理事)澤本美佐緒・(事務局長)高巢勝則
議 題	令和4年度助成金募集要項他について

「審議事項」

第1号議案 令和4年度(第33回)研究・事業・ボランティア活動助成募集要綱

※研究助成及び事業助成のカテゴリー表現を一部変更

第2号議案 助成事業の視点(案)

※新規選考評価表(5段階評価)案を提案

今年度は、現評価表と新評価評価(案)を併用して試行

第3号議案 令和4年度研究・事業・ボランティア活動 助成金申請書(案)

第4号議案 令和4年度 助成募集スケジュール(案)

第5号議案 ボランティアの応募件数について

第6号議案 選考委員への申請書の送付の在り方等について

「報告事項」

①令和4年度事業計画(理事会承認事項)

①令和2年度(第31回)研究助成・事業助成の状況

②令和3年度(第32回)研究助成・事業助成の状況

●2. 令和4年度選考委員会(第2回)

日 時	令和4年5月19日〔木〕 18:00～19:30
場 所	会場:京王プラザホテル 4F なつめ
選考委員	内田 恵美子、角田 亘、佐々木 淳、千野直一、北條慶一、堀 勝洋 丸山美知子
厚生労働省	(医政局地域医療計画課 医療関連サービス室長)原 慎治
フランスベッ ド財団	[会長]松谷 有希雄、[理事長]池田 茂(欠席)、[常務理事]澤本 美佐緒 [選考担当理事]田原 啓佐、[事務局長]高巢 勝則
議 題	令和4年度助成金採用の審議

「議事次第」

1. 開会 会長 挨拶
2. 議長の推薦
3. 議事
 - 1) 議事録署名人の選出
 - 2) 令和4年度応募状況について
 - (1)令和4年度応募件数(研究32件 事業6件 ・ボランティア6件)
 - (2)応募者の属性
 - (3)応募・採用件数及び金額一覧表
 - 3) 令和4年度助成金採用の審議
 - 4) 選考結果の公表及び通知等の日程について
 - 5) その他
 - 1) 5段階評価について(意見交換)
 - 2) 令和3年度ボランティア活動助成の変更申請について
 - 6) 報告事項
 - 1) 令和2年度(第31回)助成状況
 - 2) 令和3年度(第32回)助成状況
 - 3) 委託調査研究について
4. 閉会

●3. 令和4年度(第33回)助成の対象及びカテゴリ

○助成の対象

- ・在宅ケア等に関する創意工夫を生かした自発的な事業又は先駆的、実験的なモデル事業であって、地域の実情に即したきめ細かな研究事業で普及の可能性の有るものに対し助成を行う。
- ・臨床や地域で従事している職員及び福祉機器・医療機器の事業者の個人あるいはグループを対象とする。
- ・大学院生を対象とする。但し、指導教員の推薦書（別紙様式1-3）が必要です。
- ・研究助成については大学教員の申請者は、応募の対象外といたします。

(1) 研究助成カテゴリ

- ①地域包括ケア・訪問看護・在宅介護支援の拡大、およびこれらの質の向上に関する研究
- ②病院から在宅療養への連携（病診連携、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携、病院看護師と訪問看護師との連携及び訪問看護師同士の連携）に関する研究、在宅医療・介護に関する研究
- ③リハビリテーション活動や機器に関する研究
- ④難病や終末期及び精神障害の在宅医療・看護・介護支援強化に関する研究
- ⑤福祉用具の開発及び活用・効果に関する研究
- ⑥その他（医療行為の安全、海外のホームケア、震災後のケア）

(2) 事業助成カテゴリ

- ①在宅療養者への医療・看護・介護サービス実施事業
- ②高齢者や障害者（児）の在宅ケア推進関連事業
- ③認知症、難病、終末期、精神障害、被虐待等の在宅医療・看護・介護支援強化に関する事業

(3) ボランティア活動助成

- 在宅ケアの推進に資する事を目的として、高齢者や障害者（児）等を対象として、公益のために活動しているボランティア団体に対して助成いたします。

●4. 研究・事業助成採用について

実施時期	助成金決定日～令和5年3月31日		
募集期間	令和4年2月16日～令和4年4月14日		
応募総数	44件	採用件数: 30件	助成金総額: 10,825,000円
助成金累計総額	493,380,000円		

※助成応募・採用件数及び金額一覧表は次の資料のとおりです。

※令和4年度助成金採用者一覧表は次の資料のとおりです。

助成応募・採用件数及び金額一覧表

令和4年5月20日現在

年度	応募件数	採用件数	採用率 (%)	内 訳						応募予算 1件当たり10万～100万	実績
				研究		事業		ボランティア			
				件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比		
平成2年度	64	31	48.4	17	54.8	14	45.2			3,000万円	2,597万円
平成3年度	67	31	46.3	17	54.8	14	45.2			3,000万円	3,049万円
平成4年度	59	31	52.5	21	67.7	10	32.3			3,000万円	3,000万円
平成5年度	61	21	34.4	15	71.4	6	28.6			2,000万円	1,760万円
平成6年度	50	14	28.0	11	78.6	3	21.4			1,500万円	1,300万円
平成7年度	54	16	29.6	12	75.0	4	25.0			1,500万円	1,296万円
平成8年度	46	18	39.1	13	72.2	5	27.8			1,500万円	1,285万円
平成9年度	44	17	38.6	13	76.5	4	23.5			1,500万円	1,355万円
平成10年度	56	22	39.3	13	59.1	9	40.9			2,000万円	1,800万円
平成11年度	49	19	38.8	11	57.9	8	42.1			1,500万円	1,350万円
平成12年度	35	19	54.3	14	73.7	5	26.3			1,500万円	1,400万円
平成13年度	37	19	51.4	12	63.2	7	36.8			1,500万円	1,402万円
平成14年度	45	19	42.2	16	84.2	3	15.8			1,500万円	1,208万円
平成15年度	44	20	45.5	14	70.0	6	30.0			1,500万円	1,408万円
平成16年度	39	24	61.5	21	87.5	3	12.5			2,000万円	1,752万円
平成17年度	87	30	34.5	22	73.3	8	26.7			1,700万円	1,750万円
平成18年度	95	39	41.1	30	76.9	9	23.1			2,500万円	2,488万円
平成19年度	81	40	49.4	36	90.0	4	10.0			3,000万円	2,892万円
平成20年度	96	46	47.9	39	84.8	7	15.2			3,000万円	2,891万円
平成21年度	6	5	83.3	0	0.0	5	100.0			300万円	205万円
平成22年度	54	15	27.8	11	73.3	4	26.7			600万円	584万円
平成23年度	45	11	24.4	9	81.8	2	18.2			500万円	510万円
平成24年度	55	19	34.5	17	89.5	2	10.5			500万円	514万円
平成25年度	70	26	37.1	22	84.6	4	15.4			500万円	874万円
平成26年度	57	49	86.0	19	38.8	7	14.3	23	46.9	1,200万円	1,103万円
平成27年度	76	51	67.1	25	49.0	6	11.8	20	39.2	1,200万円	1,228万円
平成28年度	46	34	73.9	15	44.1	10	29.4	9	26.5	1,200万円	1,094万円
平成29年度	64	45	70.3	26	57.8	7	15.6	12	26.7	1,200万円	1,319万円
平成30年度	59	35	59.3	18	51.4	12	34.3	5	14.3	1,200万円	1,181万円
令和元年度	58	39	67.2	21	53.8	10	25.6	8	20.5	1,200万円	1,304万円
令和2年度	53	34	64.2	23	67.6	6	17.6	5	14.7	1,200万円	1,204万円
令和3年度	47	32	68.1	24	75.0	3	9.4	5	15.6	1,200万円	1,153万円
令和4年度	44	30	68.2	20	66.7	4	13.3	6	20.0	1,200万円	1,082万円
合計	1,843	901	48.9	597	66	211	34	93	10	51,900万円	49,338万円

令和4年度（第33回）研究助成・事業助成・ボランティア活動助成 採用者一覧

応募件数 《合計14件》 ■研究助成32件（一般16件／大学院生16件） ■事業助成6件 ■ボランティア活動助成6件
 採用件数 《合計30件》 ■研究助成20件（一般9件／大学院生11件） ■事業助成4件 ■ボランティア活動助成6件

■研究助成（20件）

① 地域包括ケア・訪問看護・在宅介護支援の拡大、およびこれらの質の向上に関する研究（4件）

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採用	決定金額
1	研究 ①	大阪府 立命館大学	テクノロジーマネジメント研究科	博士後期課程（大学院生）	倉浪 孝明	42	要介護高齢者の在宅介護支援のためのオンライン運動指導ーピアサポートによる行動変容モデルの解明ー	採用	¥500,000
2	研究 ①	茨城県 筑波大学大学院	人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム	博士後期課程	工藤 あずさ	31	初回エピソード精神病患者に対する訪問看護師・外来看護師による服薬支援に関する研究	採用	¥330,000
3	研究 ①	広島県 広島大学	大学院医系科学研究科総合健康科学専攻保健科学プログラム	大学院生（博士課程後期）	井上 ゆりこ	43	通いの場に参加する高齢者のソーシャルサポートの親密性と主観的幸福感	採用	¥415,100
4	研究 ①	東京都 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター	リハビリテーション科	主任・言語聴覚士	鈴木 瑞恵	40	地域在住高齢者の日常会話量と呼吸機能・口腔機能の関連	採用	¥500,000

¥1,745,100

② 病院から在宅療養への連携に関する研究、在宅医療・介護に関する研究（3件）

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採用	決定金額
5	研究 ②	福岡県 公立学校共済組合九州中央病院	臨床研究センター 泌尿器科	部長	関 成人	63	在宅医療における使い捨てタイプの間欠導尿カテーテルの有用性に関する比較検討	採用	¥300,000
6	研究 ②	大阪府 大阪大学歯学部附属病院	顎口腔機能治療部	医員	松村 えりか	33	在宅における食事モニタリング機器の開発	採用	¥400,000
7	研究 ②	千葉県 千葉大学	大学院看護学研究科	博士後期課程 大学院生	川上 奈々	33	ICFを基盤とした統合失調症を有する当事者の社会復帰支援の構造化	採用	¥499,600

¥1,199,600

③ リハビリテーション活動や機器に関する研究（10件）

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採用	決定金額
8	研究 ③	千葉県 東京湾岸リハビリテーション病院	リハビリテーション科	医師	宮崎 裕大	34	機械学習による脳卒中患者における回復期病棟退院時予後予測精度改善の検討	採用	¥350,000
9	研究 ③	大阪府 かわぞえ医院	リハビリテーション科	作業療法士	中川 幸太郎	42	脳卒中者の麻痺手痙攣を軽減させる運動錯覚装置の開発と効果検証	採用	¥500,000
10	研究 ③	静岡県 国立大学法人浜松医科大学	大学院 医学系研究科	大学院生	内山 昌代	51	地域在住高齢者の転倒予防セルフケア行動の実施状況と促進要因	採用	¥90,000
11	研究 ③	大阪府 医療法人協和会 千里中央病院	リハビリテーション科	主任・理学療法士	吉田 啓志	33	回復期リハビリテーション病棟に入院する患者のヘルスリテラシーが日常生活動作および身体活動量に与える影響	採用	¥228,000
12	研究 ③	兵庫県 兵庫医科大学大学院	医科学専攻 高次神経制御系 リハビリテーション科学	大学院生（博士課程）	本間 敬喬	30	高齢化社会を見据えた脳卒中患者の骨格筋量と転倒に関する調査	採用	¥495,000

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採否	決定金額	
13	研究 ③	兵庫県	兵庫医科大学大学院	医科学専攻高次機能制御系リハビリテーション科学	大学院生	本田 陽亮	33	フレイルを有する高齢心臓外科手術予定患者に対する術前からのリハビリテーションの有効性の検証	採用	¥440,000
14	研究 ③	埼玉県	社会福祉法人 埼玉医療福祉会 丸木記念福祉メディカルセンター	リハビリテーション科	理学療法士、医学修士(理学療法)	山崎 雄一郎	34	在宅退院後に転倒恐怖感が生じる対象者の歩行パラメータと前頭前野の活動との関連	採用	¥500,000
15	研究 ③	埼玉県	医療法人敬愛会リハビリテーション天草病院	リハビリテーション部	理学療法士	吉田 実央	25	麻痺筋の神経生理学的回復機序を反映した脳卒中患者の在宅退院支援プログラム構築に向けた基礎的研究	採用	¥497,800
16	研究 ③	東京都	東京都立大学大学院	人間健康科学研究科 理学療法科学域	大学院生	木村 優希	24	脳性麻痺患者における Posture and Postural Ability Scale の信頼性と妥当性の検討	採用	¥300,000
17	研究 ③	東京都	聖路加国際大学	公衆衛生大学院	学生	益岡 薫	46	「深層学習/機械学習を用いた高齢者における嚥下障害の簡易写真判定アルゴリズムの開発」	採用	¥500,000
									¥3,900,800	

④ 難病や終末期及び精神障害の在宅医療・看護・介護支援強化に関する研究 採用なし

⑤ 福祉用具の開発及び活用・効果に関する研究 (2件)

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採否	決定金額	
18	研究 ⑤	東京都	国際医療福祉大学大学院	医療福祉学研究科福祉支援工学分野福祉用具管理指導者領域	研究生	小島 みさお	51	特定福祉用具販売種目に関する相談と選定の実態―福祉用具専門相談員のアンケート調査から―	採用	¥102,500
19	研究 ⑤	兵庫県	社会福祉法人播磨養特別養護老人ホームいやさか苑	特別養護老人ホームいやさか苑	施設長、大学院生	田上 優佳	57	特養における人居者の移動・移乗用福祉用具の適合評価ツール開発の研究	採用	¥500,000

¥902,500

⑥ その他(医療行為の安全、海外のホームケア、震災後のケア) (1件)

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採否	決定金額	
20	研究 ⑥	神奈川県	公益社団法人神奈川県介護福祉士会		理事	小野 真弓	62	障害者支援施設及び介護老人福祉施設における高齢障害者の生活支援に関する課題の明確化	採用	¥500,000

研究助成 総合計 ¥8,248,000

■事業助成 (4件)

① 在宅療養者への医療・看護・介護サービス実施事業 (1件)

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採否	決定金額	
21	事業 ①	千葉県	認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど	事務局	企画担当 副代表	奥田 義人	70	誰もが行きたいときに行きたいところへ外出ができるようになる	採用	¥480,000

② 高齢者や障害者(児)の在宅ケア推進関連事業 (2件)

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採否	決定金額	
22	事業 ②	北海道	一般社団法人はっぴー福祉会	子どもSOSほっかいどう	代表理事・管理者	柳原 悦子	71	障害児の在宅ケアを支えるための居場所(サロン)・総本事業	採用	¥500,000
23	事業 ②	大阪府	大阪大学	医学系研究科保健学専攻	准教授	内海 楳絵	47	地域包括ケアを基盤とした在宅ケア推進のための感染対策リーダー育成事業	採用	¥497,000

③ 認知症、難病、終末期、精神障害、被虐待等の在宅医療・看護・介護支援強化に関する事業（1件）

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採用	決定金額
24 事業 ③	大阪府	東大阪市指定障害福祉サービス等事業所連絡会		会長	和泉 直貴	49	劇「精神病院つばき荘」上演とアフタートーク （精神障害者の人権擁護とさらなる地域生活への啓発）	採用	¥500,000

事業助成 総合計 ¥1,977,000

■ボランティア活動（6件）

カテゴリー	地域	所属施設名・団体名	所属部署名	役職名・職名	申請者氏名	年齢	テーマ	採用	決定金額
25 ボランティア	兵庫県	兵庫県生涯学習インストラクターの会阪神ブロック		代表	清谷 善子	52	日本のシニアを笑顔で！元気に！シニアヨガ体操オンライン＆実施シニアヨガ＋足踏み運動	採用	¥100,000
26 ボランティア	富山県	若竹支え合いの家		代表	七山 政廣	80	住民主体の高齢者サービスをボランティアで実施して！年目です。さらに充実した内容にしていきたいです。	採用	¥100,000
27 ボランティア	京都府	男性介護者を支援する会TOMO		世話人	西 博三	75	ケアラー支援イベントでケア友づくり	採用	¥100,000
28 ボランティア	北海道	特定非営利活動法人みつばちの小さな喫茶店	戦略室	理事長	菊地 晴海	78	介護保険適用外サービス「送迎付き添いサポート」提供の推進を図る	採用	¥100,000
29 ボランティア	千葉県	「グランベ」ボランティア・チーム	スタッフ	代表	八坂 啓介	55	見えない・見えにくい子どもたちが、クライミングを通じて、心身ともに成長していけるようなスクールのサポート。	採用	¥100,000
30 ボランティア	東京都	ミュージックトレイン音楽スクール		代表	坂東 弘道	61	高齢者福祉施設への訪問演奏～バンド演奏(ジャズ・昭和歌謡・映画音楽・ダンス音楽等の懐かしい曲の数々)による訪問活動～	採用	¥100,000

ボランティア活動助成 総合計 ¥600,000

研究助成	¥8,248,000
事業助成	¥1,977,000
ボランティア活動助成	¥600,000
総合計	¥10,825,000

ロ. 教育研修事業 [公2:在宅ケア関連サービスに関する、人的育成を図るために教育研究事業並びにセミナーを通じての啓発活動事業]

1) 福祉用具専門相談員指定講習会の実施

本研修会は、高齢者の増加かつ多様化するニーズに対応した適切な福祉用具等を提供するため、必要な知識技能を有する従事者を養成し、もって高齢者の自立の促進及び介護者の負担軽減を図ることを目的としております。

なお、本研修は、介護保険における福祉用具貸与(販売)事業者の人員基準で定める指定講習会(東京都知事が平成27年3月19日に指定した講習会)の指定を受けて実施するものです。

第一回:福祉用具専門相談員講習会の開催[27年度改正] 6日間 50時間

日時:令和4年11月9日(水)、10日(木)、11日(金)

11月12日(土)、11月18日(金)、19日(土) 合計6日間

会場:①『遠隔講義』11月9日(水)・10日(木)・11日(金)、11月12日(土)【4日間】

(1) 公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団から配信

(2) 社会福祉法人浴光会 国分寺病院から配信

(3) マロニエ医療福祉専門学校 理学療法士学科から配信

②『集合研修会場』11月18日(金)、19日(土)、【2日間】

「フランスベッド(株)メディカレント東京3階」

住所:東京都小平市天神町 4-1-1

参加者:11名 (終了者数9名:2名欠席)

科目:福祉用具と福祉用具専門相談員の役割、介護保険制度に関する基礎知識、高齢者と介護・医療に関する基礎知識、個別の福祉用具に関する知識・技術、福祉用具に係わるサービスの仕組みと利用の支援に関する知識、福祉用具の利用の支援に関する総合演習

受講料:40,000円

※福祉用具専門相談員講習課程

区分	科目	時間数
講義	1 福祉用具と福祉用具専門相談員の役割	
	(1) 福祉用具の役割	1
	(2) 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	1
	2 介護保険制度等に関する基礎知識	
	(1) 介護保険制度等の考え方と仕組み	2

	(2) 介護サービスにおける視点	2
	3 高齢者と介護・医療に関する基礎知識	
	(1) からだとこころの理解	6
	(2) リハビリテーション	2
	(3) 高齢者の日常生活の理解	2
	(4) 介護技術	4
	(5) 住環境と住宅改修	2
	4 個別の福祉用具に関する知識・技術	
	(1) 福祉用具の特徴	8
演習	(2) 福祉用具の活用	8
	5 福祉用具に係わるサービスの仕組みと利用の支援に関する知識	
講義	(1) 福祉用具の供給の仕組み	2
	(2) 福祉用具貸与計画等の意義と活用	5
演習	6 福祉用具の利用の支援に関する総合演習	
	福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の作成	5
合計		50

(注) 上記とは別に、筆記に方法による修了評価（1時間程度）を実施する。

2) 福祉用具プランナー研修会の実施

本研修会は、介護の現場において適正な福祉用具の利用が促進されるよう、福祉用具の取扱いに関する知識や個々の福祉用具の利用方法などの専門知識を有する人材の育成を図るとともに、福祉用具に携わる様々な職種の者に、福祉用具の適正な取扱いについて共通認識を育て、その基盤として福祉用具の適切な使用と供給の実現に資する事を目的としております。

第一回:福祉用具プランナー研修会の開催 100.5時間

日時:令和5年1月5日〔木〕～令和5年3月5日〔日〕 eラーニング期間

令和5年2月25日〔土〕～27日〔月〕 3日間 前期集合研修

令和5年3月 8日〔水〕～11日〔土〕 4日間 後期集合研修

主催:公益財団法人テクノエイド協会

集合研修実施機関:(公財)フランスベッドメディカルホームケア研究助成財団

場所:フランスベッド(株)メディカレント東京3階「東京都小平市天神町 4-1-1」

参加者:31名 (内:補講者 1名・ :再試験者 2名)

受講料:58,000円(内、21,000円テクノエイド協会)

科目:住宅改造各論・対人援助技術・構造とメンテナンス・床ずれ防止関連用具、
高齢者の身体特性・起居、排泄、移動、入浴、移乗関連用具・最新情報、
職業倫理・福祉用プランニング演習他

※福祉用具プランナー認定講習カリキュラム(105.5時間)履修科目
及び時間数

eラーニング科目	履修時間
福祉用具専門職の役割	1.5H
福祉用具概論	1.5H
福祉用具の選定と情報提供と相談技術	1.5H
相談援助のためのプランニングの理解	1.5H
相談援助のためのプランニングの実際	1.5H
介護保険におけるケアマネジメント	1.5H
対人援助技術	1.5H
職業倫理	1.5H
認知症の理解	1.5H
福祉用具供給の業務	3.0H
福祉用具供給に係わる法律関係	1.5H
介護保険制度と福祉用具	1.5H
福祉用具供給のリスクマネジメント	1.5H
高齢者の身体特性	1.5H
生活における基本動作・ADLの理解	1.5H
起居関連用具	1.5H
移乗関連用具	1.5H
移動関連用具(車いす/杖・歩行器)	3.0H
床ずれ防止関連用具	1.5H
入浴関連用具	1.5H
排泄関連用具	1.5H
食事・更衣・整容関連用具	1.5H
社会参加関連用具(自助具含む)	1.5H
コミュニケーション関連用具	1.5H
住宅改造総論	7.5H
構造とメンテナンス	1.5H
合 計	48.0H

【eラーニング受講条件】

- 1.自宅または職場等でインターネット接続可能なパソコンがあること。
- 2.一般的なパソコンの操作ができること。
- 3.受講者個人のメールアドレスを所持していること。

パソコン 環境要件 (システム等)	Windows OS/Windows8.1 Windows10 : Mac OS/OSXv10.11.6 ブラウザ/Windows/Microsoft Edge Chrome67 以降 FireFox60 以降 Mac/Safari12.1.1 以降 /Chrome70 以降/FireFox60 以降
モバイル (スマートフォン・タブレット)	iOS/ OS: iOS12 以降 ブラウザ:Safari(最新版) Android / OS :Android6.0 以降 ブラウザ:Chrome(最新版)
ソフトウェア	Adobe Reader がインストールされていない場合 Adobe 社のホームページから Adobe Reader の最新版をダウンロードし、インストールしてください。
その他	・日本語版のみ対象となります。 ・音声付きの教材になりますので、イヤホンやスピーカーなどをご用意ください。(音声再生ができる環境が必要になります。) ・快適にご利用いただくためには、Wi-Fi等、高速なインターネット接続をおすすめします。

集合研修科目	履修時間
最新情報【講義】	1.5H
相談援助のためのプランニングの実際【演習】	1.5H
相談援助のためのプランニング演習【演習】	9.0H
対人援助技術【演習】	3.0H
職業倫理【演習】	1.5H
高齢者の身体特性【演習】	1.5H
生活における基本動作・ADLの理解【演習】	1.5H
起居関連用具【実技】	3.0H
移乗関連用具【実技】	3.0H
移動関連用具(車いす/杖・歩行器)【実技】	3.0H
床ずれ防止関連用具【実技】	3.0H
入浴関連用具【実技】	3.0H
排泄関連用具【実技】	3.0H
食事・更衣・整容の活動と用具【実技】	1.5H
社会参加関連用具【実技】	
コミュニケーション関連用具【実技】	
住宅改造【演習】	9.0H
構造とメンテナンス【実技】	3.0H
合計	51.0H
福祉用プランナー認定試験	1.5H
総 合 計	100.5H

【標準的なカリキュラム】

福祉用具プランナー認定講習は、履修時間 100.5 時間の上記カリキュラムとし、「座学」(48.0 時間)については、学習時間や学習場所に拘束されない「eラーニング」による学習方法とし、公益財団法人テクノエイド協会内に設置する福祉用具プランナー認定講習 eラーニング用サーバーにアクセスして履修する。また、「実技・演習・修了試験」(52.5 時間)については、集合研修とし、期間内に集合研修のカリキュラムを履修する。

【受講資格条件】 受講条件は、下記の i ~ iii を満たす者とする。

- i 資格(いずれか1つに該当すること)

- a. 指定福祉用具貸与事業所又は指定特定福祉用具販売事業所において、福祉用具専門相談員として、その業務に従事している又は従事した経験のある者
 - b. 福祉用具関連業務に従事している又は従事した経験のある次の者。保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士、介護支援専門員、建築士(一級・二級・木造)
 - c. その他、認定講習を受講することが特に有効であると理事長が認める者
- ii 実務経歴
- 認定試験実施日において、福祉用具専門相談員業務または福祉用具関連業務に2年以上従事した経験がある者
- iii eラーニング受講環境等
- a. 自宅もしくは職場等で e ラーニング学習に必要な環境、教材を確保できること。
 - b. 一般的なパソコン等の操作ができること。
 - c. 受講者個人用のメールアドレスを所持していること。

【補講・再試験の申込手続き】

(公財)テクノエイド協会HP「福祉用具プランナー情報システム」内「様式ダウンロード」より、「福祉用具プランナー認定講習(補講・再試験)申込書」をダウンロードし、(公財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団までお申し込みください。

再試験費用 3,100 円(消費税込み)

3)リフトリーダー養成研修の実施

本研修会は、介護労働者の身体的負担軽減や腰痛予防のため、移動用リフトをはじめとする福祉用具の活用が望まれており、介護者の腰痛予防を図るために、利用者ニーズに対応した質の良いサービス提供の促進に向け、アセスメント手法と身体機能に合わせた福祉用具の選定や活用方法を学び介護支援に携わる専門職の資質向上を図ることを目的にしております。

第1回リフトリーダー養成研修(札幌市開催)

日時:令和4年7月8日〔金〕から9日〔土〕 2日間

場所:札幌市産業振興センター「札幌市白石区東札幌5条1丁目 1-1」

参加者:30名 再試験者6名

受講料:15,000円(内、テクノエイド協会2,700円)

※この研修終了後に、リフトインストラクター認定試験を実施。

筆記試験・実技試験

第2回リフトリーダー養成研修(広島市開催)

日時:令和4年12月9日(金)～12月10日(土)

場所:フランスベッド:広島ショールーム 会議室

広島県広島市安佐南区大塚西 4-16-1

参加者:22名 再試験者2名

受講料:15,000円(内、テクノエイド協会2,700円)

※この研修終了後に、リフトインストラクター認定試験を実施。

※2022年度リフトリーダー養成研修カリキュラム

	科目	科目内容	時間
第1日目	リフトリーダーと助成金制度 (講師)市川 洵	○リーダーとしての役割と心構え ○各種講習と考え方 ○助成金制度の概要とポイント ○腰痛予防対策チェックリストの活用	10:00 } 11:30 (90分)
	腰痛の原因と対策 (講師)市川 洵	○介護者の腰痛発生状況とその原因 ○腰痛予防に関連する法令、指針など ○腰痛予防対策 ○労働衛生管理のすすめ方 ○機器導入効果の検証方法	12:30 } 14:00 (90分)
	介護作業とリフト (講師)市川 洵	○吊具の種類と特徴 ○リフトの種類と特徴 ○介護作業のアセスメント ○次回実技の概要説明	14:10 } 17:10 (180分)

第2日目	移乗関連用具指導法 (講師)市川 洵	○リフト等の使い方 ○リフト等の指導法 ○機種別(選択)実技 ○個別相談	9:00 } 16:00 (360分)
------	-----------------------	---	------------------------------

※研修会終了後、希望者にはJASPA介護リフト普及協会にてリフトインストラクター認定試験を行います。受講希望される方は、申し込み用紙にその旨記載願います。

当研修受講の方は無料で受験できます。試験は筆記試験並びに実技試験を行います。

◆1日目:筆記試験 17:20～

◆2日目:実技試験 16:10～

令和4年度 第1回リフトリーダー研修 in札幌 報告

開催日 : 令和4年7月8日(金)~9日(土)

開催場所 : 札幌市産業振興センター セミナールーム

主催 : 公益財団法人

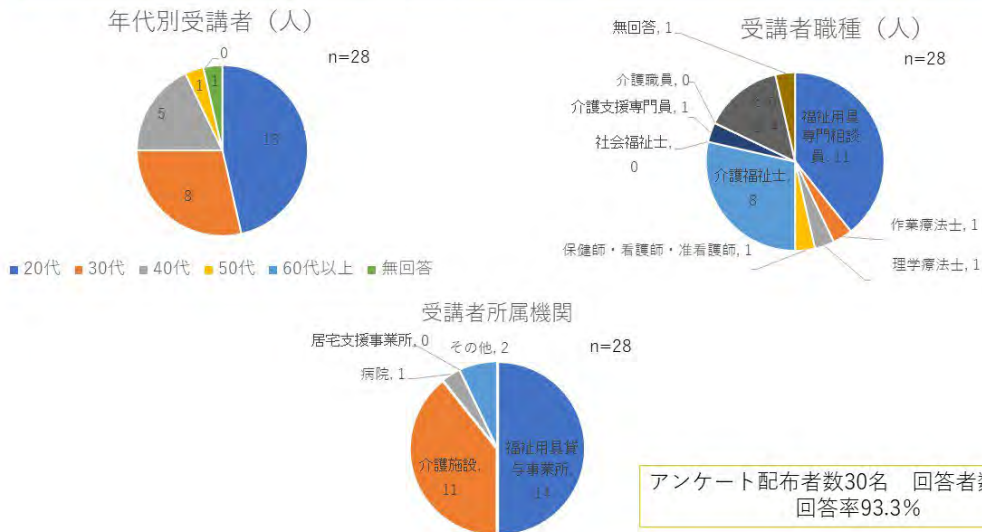
フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

リフトリーダー 研修とは

- 介護労働者の身体的負担軽減や腰痛予防のため、移動用リフトをはじめとする福祉用具の活用が望まれます。
- この研修は、アセスメント手法や身体機能に合わせたリフトの選定、活用方法を学び、利用者の安全を守るための技術を習得し、介護支援に携わる専門職の資質向上を図っています。



リフトリーダー研修 in 札幌 受講者内訳



研修の実際：講師紹介



福祉技術研究所(株) 代表取締役 **市川 洌 先生**

早稲田大学理工学部卒業

1971年～ 東京都補装具研究所で福祉機器の研究・開発

1997年～ 東京都福祉機器総合センターで福祉機器の相談

2001年～

福祉技術研究所(株) を設立。高齢者・障がい者に対する各種福祉用具支援やコンサルティングを実施。

現場での実務経験を元にした講義は、わかりやすく現場に戻ってから活かしやすいと好評です。



座学の様子

- リフトリーダーと助成金制度
- 腰痛の原因と対策
- 介護作業とリフト



実技研修

移乗関連用具指導法

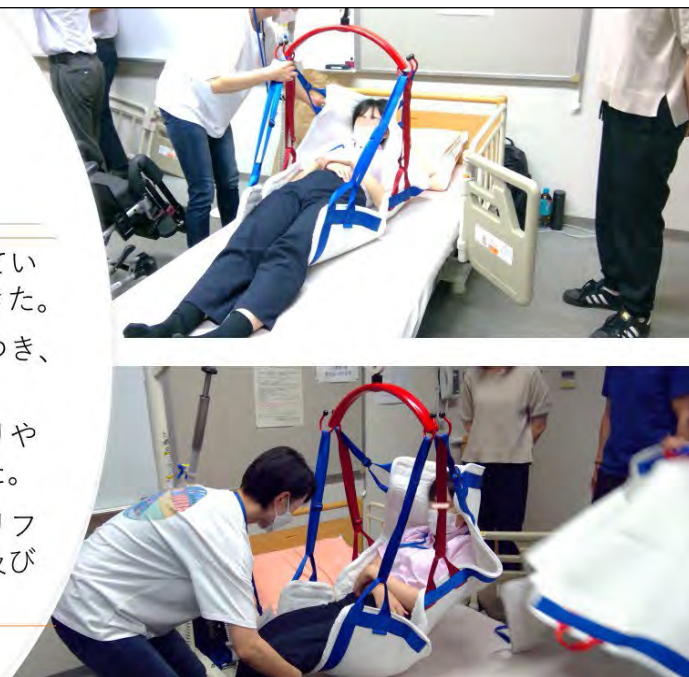
- リフト等の使い方
- リフト等の指導法
- 機種別（選択）実技
- 個別相談

市川先生の デモン ストラ ション



研修生の声

- ◆自分の施設ではリフトを利用していないので、色々と学ぶことができた。
- ◆リフトを提案するスキルが身につき、広められると思った。
- ◆リフトの使用時の例などがわかりやすく、今後の現場の参考になった。
- ◆複数の実機をすべて操作でき、リフトに使うスリングシートの種類及び扱い方を学ぶことができた。



研修生の声

- ◆腰痛を起こすメカニズム、現場で行っている対策から学ぶことができた。
- ◆ベッドの高さや、リフトを使うことで負担軽減できることなど、介助の危険性について学ぶことができた。
- ◆正しい操作・流れをしなければ、介助者側のリスクになってしまう。今あるリフトの正しい使い方を理解する必要がある。
- ◆海外はリフター使用を徹底していることがわかった。



JASPA介護リフト普及協会 リフトインストラクター認定試験

認定試験受講者数 36名

- ①筆記試験 40分 選択式+記述
- ②実技試験 1人15分程度
 - 6種類のリフトから自分が実技評価を受けたいリフトを選択
 - スリングシートの準備
 - ベッドからリフトで釣り上げ、車いすまでの移乗

結果は32の方が合格しました!!

研修の振り返り

- 新型コロナウイルス感染の第7波に入る前だったため、予定通り開催することができました。
- 研修中の様子やアンケート結果から、概ね研修目標は達成し、ご満足いただけたのかなと評価しています。
- 実技研修を行う上での適切なスペースの確保や、実技や実技テストの時間配分、準備した福祉用具の不具合、研修プログラムと講義内容の齟齬、フォローアップ研修の希望等、課題も見いだされました。
- より充実した研修になるよう、研修プログラムや準備、進行について等、講師やテクノエイド協会とも検討していきたいと思っております。

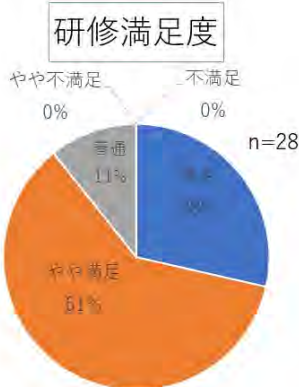
ご参加いただき、ありがとうございました



公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

研修終了後アンケート結果：満足度

アンケート配布者数30名 回答者数28名 回答率93.3%



満足を選択した理由

- ◆自分の施設ではリフトを利用していないので、色々と学ぶことができた。
- ◆いろいろなリフトの利用法、工夫を知ることができた。
- ◆リフトを提案するスキルが身につき、広められると思ったから。
- ◆実例の写真があって、わかりやすかった。
- ◆リフトの使用時の例などがわかりやすく、今後の現場の参考になった。
- ◆実践があり、ためになった。
- ◆複数の実機をすべて操作でき、リフトに使うスリングシートの種類及び扱い方を学ぶことができたから。

研修終了後アンケート結果：満足度



やや満足を選択した理由

- ◆改めてリフトの使い方を学ぶことができてよかったと思う
- ◆リフトについて詳しく知ることができた。
- ◆内容もわかりやすく、とても勉強になった。(同理由：3人)
- ◆研修の内容がわかりやすく、実践に使えるようなことをメインで教えてくれたから。
- ◆リフト実技が手厚かった。
- ◆一つ一つ細かく教えていただいたため。
- ◆実機を用いて指導してくださったため
- ◆色々なソフトを体験できてとても勉強になった。
- ◆様々な種類のリフト、シートを使用することが出来たのが良かった。改めて勉強する事で、今後の支援に活かせるポイントを知る、学ぶことが出来た。
- ◆時間があっという間に過ぎて、楽しい研修だった。ただ、もう少し時間がほしかった。
- ◆勉強になったことが多々あった。(同理由：2人)
- ◆たくさんの事例を基に現場で役立つことを学べた。なぜリフトが必要か、その根拠も経験とエビデンスからわかりやすかった。

研修終了後アンケート結果：満足度



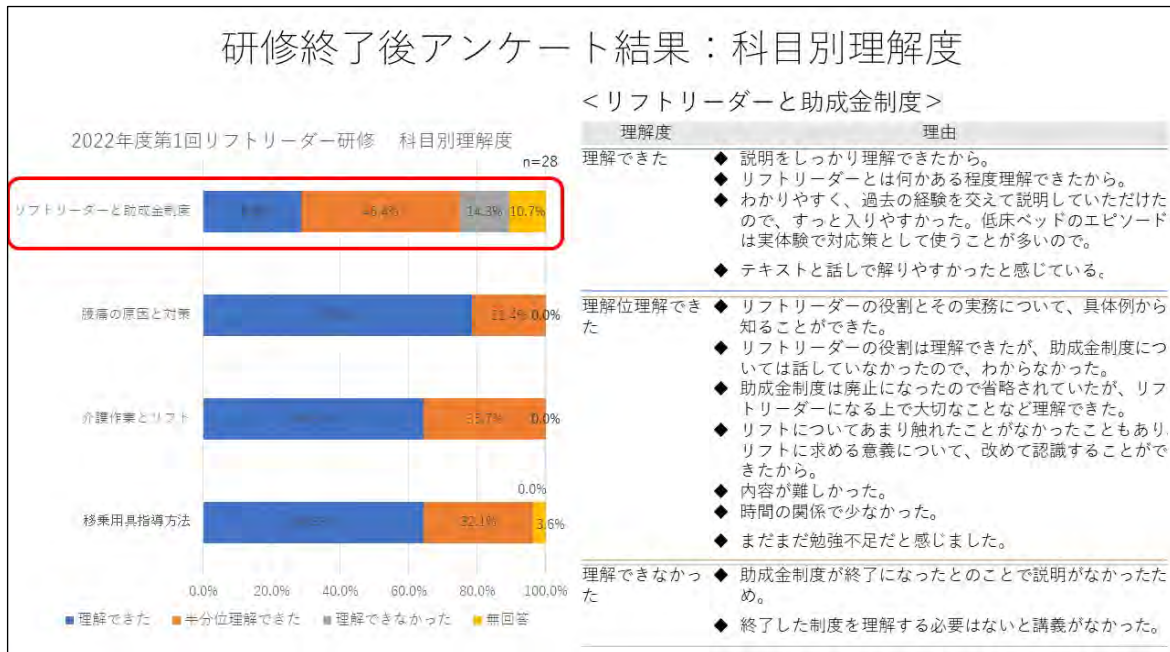
普通を選択した理由

- ◆時間が短く覚えるのが大変だった。1日に詰め込み過ぎと感じた。
- ◆実技の時間が少ない。

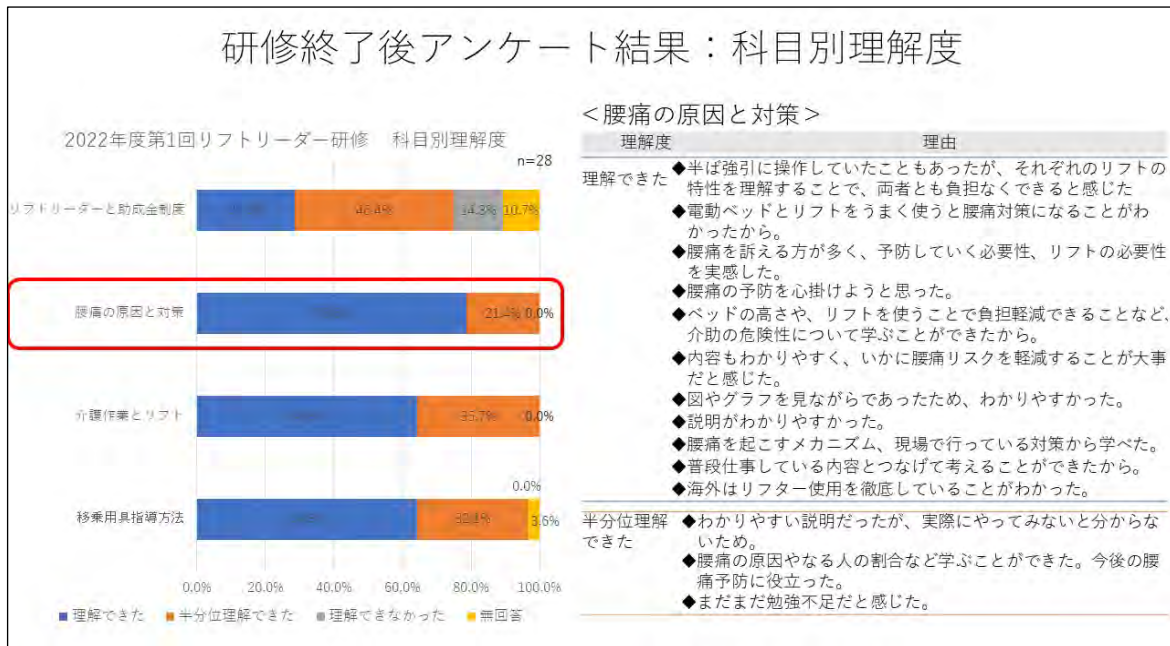
改善が必要なところ

- ◆もう少し研修日程を調整してほしい。
- ◆2日目はもう少し休憩をはさんでほしかった。
- ◆実技練習の時間配分。
- ◆研修をスムーズに行うところ。
- ◆器材（ベッド・車いすが古かった）
- ◆実技練習等の場所がもう少し広いと良いと思った。
- ◆終了した助成金制度など話さないことも多かった。内容を事前に整理しておいてほしい。
- ◆先生によってアドバイスのポイントが異なる所が多いように感じた。
- ◆仕方ないところもあると思うが、研修中にリフトやベッドの搬入をせず、休憩中にしてほしい。
- ◆先生の声が座学だと後ろの方は聞こえにくかった。

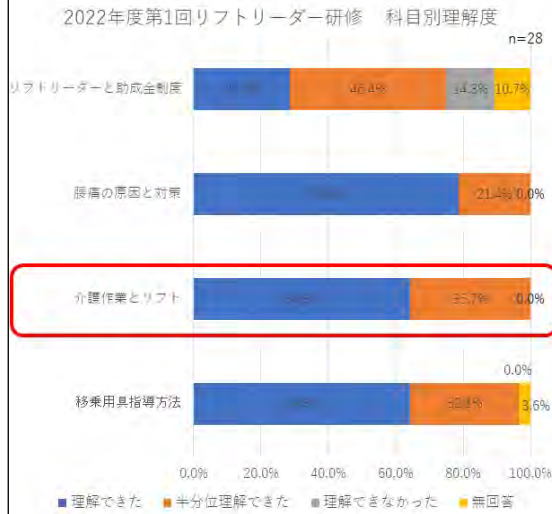
研修終了後アンケート結果：科目別理解度



研修終了後アンケート結果：科目別理解度



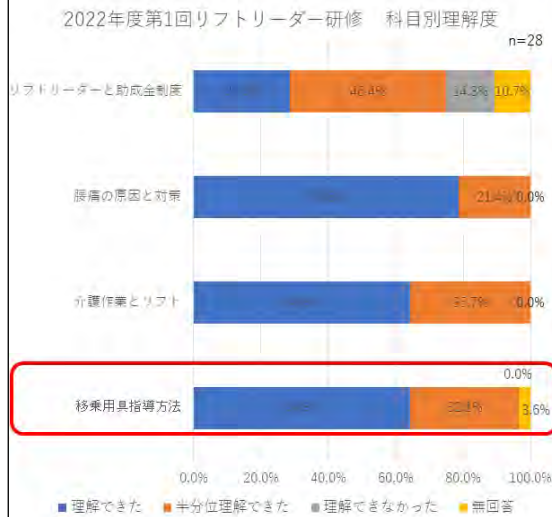
研修終了後アンケート結果：科目別理解度



<介護作業とリフト>

理解度	理由
理解できた	<ul style="list-style-type: none"> 正しい操作・流れをしなければ、介助者側のリスクになってしまう。今あるリフトの正しい使い方を理解する必要がある。 注意点がわかったから。 リフトや吊り具の種類について説明できるようになった。 移乗だけではなく、正しい位置への着座のしやすさ等、あらためて理解できた。 工夫と注意項目がわかりやすかった。 リフトの事例について、多く紹介していただき、実践向けに学ぶことができたから。 さまざまなリフトを実機で体験することができ、勉強になった。 リフトの使用方法への理解を深めた。 理解できたが、実際に見ながらの方が良かったと感じた。 介護作業において、リフトの使い方の実際、手順を知れたのはありがたかった。
半分位理解できた	<ul style="list-style-type: none"> リフトの種類やスリングシートの種類が詳しくわかった。 種類が多く覚えるのに時間がかかるため。 盛りだくさんで、事前の学習不足で頭が追いついていけなかった。 まだまだ勉強不足だと感じた。 種類が多く、講義の進みも早く追いつけなかった。

研修終了後アンケート結果：科目別理解度



<移乗用具指導方法>

理解度	理由
理解できた	<ul style="list-style-type: none"> 正しい操作・流れをしなければ、介助者側のリスクになってしまう。今あるリフトの正しい使い方を理解する必要がある。 注意点がわかったから。 リフトや吊り具の種類について説明できるようになった。 移乗だけではなく、正しい位置への着座のしやすさ等、あらためて理解できた。 工夫と注意項目がわかりやすかった。 リフトの事例について、多く紹介していただき、実践向けに学ぶことができたから。 さまざまなリフトを実機で体験することができ、勉強になった。 リフトの使用方法への理解を深めた。 理解できたが、実際に見ながらの方が良かったと感じた。 介護作業において、リフトの使い方の実際、手順を知れたのはありがたかった。
半分位理解できた	<ul style="list-style-type: none"> リフトの種類やスリングシートの種類が詳しくわかった。 種類が多く覚えるのに時間がかかるため。 盛りだくさんで、事前の学習不足で頭が追いついていけなかった。 まだまだ勉強不足だと感じた。 種類が多く、講義の進みも早く追いつけなかった。

研修終了後アンケート結果：自由記述

- ◆パンフレットをテーブルに並べてほしかった。たくさんのリフトを体験できてよかった。
- ◆リフトや吊り具は人によって全然違うものが適していると知ることができた。
- ◆楽しく研修に参加することができた。
- ◆リフトを使用した経験がなく、身につけたくて参加した。
リーダーを目指すには、色々不十分すぎるかと、でもこの経験を今後に生かしたい。
- ◆リフトの事例について写真があり、操作や注意点だけでなく、個々に合わせた工夫について学ぶことができた。
- ◆リフトでの介助方法を、今後活かしていきたい。
- ◆リフトを使用する機械がある中でも、改めて知ること、学ぶことができた。
施設に戻った後、しっかり他職員にも伝えていきたいと思う。
- ◆可能であれば、土日がよい。
- ◆各地で開催していただき、参加できる機会を増えることはとてもありがたいと思う。
- ◆終了後も行っていることが間違っていないか・・・等の確認研修を行いたい。

※第2回リフトリーダー養成研修報告は、当財団ホームページに掲載しています。

4) [講演会等]の実施

1. セミナー啓発研修会活動では、高齢者をはじめとする在宅療養者が必要とするニーズを捉え、医療・看護・介護に関連した利用者の目線に立った情報提供と在宅ケアを支える専門職の方への現任教育として講演会等を実施しております。
2. 研修会、講演会
 - 2022年介護支援専門員研修会 in 宮城&山形(案内チラシは下記のとおりです。)

公益財団法人フランスベット・メディカルホームケア研究・助成財団
新しいホームケアを目指して“ふれあいの輪”
参加費 無料

2022年介護支援専門員研修会in宮城&山形

ハイブリット開催:会場 & Web同時開催

第1部:『コロナ禍の高齢者支援について』
第2部:『解説! 居宅サービス計画書様式変更による実務への反映』

※会場内では福祉用具新商品見学・説明会同時開催

日時 2022年7月11日(月) 13:00~16:40

会場 ①仙台会場: 宮城県仙台市宮城野区岩切分台2-12-12
フランスベット: 仙台ショールーム 3F研修室
②山形会場: 山形県平久保100番地
山形国際交流プラザ 山形ビッグウィング4階研修室

講師 第1部 千葉 喜久也 (ちば きくや) 先生
仙台大学 子ども運動教育学科 教授
第2部 成澤 正則 (なりさわ まさのり) 先生
山形県介護支援専門員養成研修講師

定員 会場: ①仙台会場先着順: 50名
②山形会場先着順: 50名
③Web参加先着順: 200名
※参加申込者が定員になり次第、締切とさせていただきます。

主催: 公益財団法人フランスベット・メディカルホームケア研究・助成財団
協賛: フランスベット株式会社 メディカル北日本営業部

※ 参加者: 会場 15名(仙台) ・ 34名(山形)
Web 295名(推定値) 合計344名

2022年度介護支援専門員研修 in 宮城&山形

開催日時：2022年7月11日（月）13:00～16:50

主催：公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

協賛：フランスベッド株式会社 メディカル北日本営業部

介護支援専門員（ケアマネージャー）研修とは

- 介護保険制度では、高齢者の在宅ケアを可能にする環境の整備と高齢者が安心して、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域包括的支援体制の実現を目指すこととしております。そのため介護支援専門員の役割は重要視され、適切なケアマネジメントと、複雑化する制度への対応と説明が求められます。
- 当財団では、介護保険制度のしくみや、ケアマネジメントに役立つ情報提供等を実施しています。

研修テーマと講師紹介

第1部講演：「コロナ禍における高齢者支援について」

仙台大学 客員教授 千葉 喜久也 先生

- 東北福祉大学卒業、法政大学大学院修士課程修了（経済学）
- 東北大学大学院博士課程修了（学術博士）。
- 1975年 秋田県庁採用。
- 1996年 秋田県職員海外研修生として米国に派遣。高齢者福祉を学ぶ。
- 2000年 東北福祉大学に勤務。
- 2012年～学校法人花田学園本部付参与、
東京有明医療大学看護学部准教授、教授を歴任
- 2016年～仙台大学子ども運動教育学科教授を経て客員教授。

【主な著書】『児童福祉論』（中央法規）、
『21世紀型福祉へ挑戦』編著（ぎょうせい）
『子ども虐待と親子再統合』（福祉工房） 等



2

研修テーマと講師紹介

第2部講演：「解説！居宅サービス計画書様式変更による実務への反映」

介護支援センター「よつばの里」管理者/主任介護支援専門員
成澤 正則 先生



- 山形県鶴岡市生まれ、同在住。
- 特別養護老人ホームの介護職員、在宅介護支援センターのソーシャルワーカーなどの職務を経験。
- 現在は、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員として利用者支援にあたるかたわら、介護支援専門員養成研修、介護サービス事業所や各種団体向けの研修講師も務める。
- ブログ「narisawaメモ」では、介護支援専門員に役立つ情報発信も行う。

【主な著書】居宅サービス計画書作成と手続きのルール（日総研出版）
居宅ケアマネ超実務的現場ルールブック（日総研出版）

【連載】居宅ケアマネ実務のQ & A（隔月刊誌「達人ケアマネ」日総研出版）
ケアマネ業務のチェックポイントと間違いのない記録の書き方
（月刊ケアマネジャー 中央法規出版）

（成澤先生資料より転用）

受講者の参加方法

参加方法（アンケート回答者より）



- 今回、初めてWebを使用し2つの県で開催いたしました
- 会場参加とWeb参加をあわせて約300名近くのケアマネジャーさんに参加していただきました。

Web開催の成果ができました。



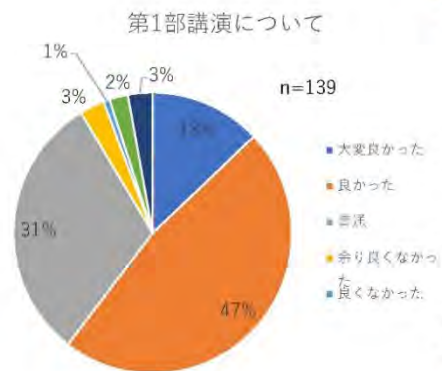
4

研修の様子

- 仙台会場の様子です。
- 千葉先生は仙台会場で、成澤先生は山形会場からご講演いただき、Webで配信しました。
- 千葉先生のご講演の最初の方では、音声聞き取りづらく、ご迷惑をおかけしました。



研修生の声：第1部講演について

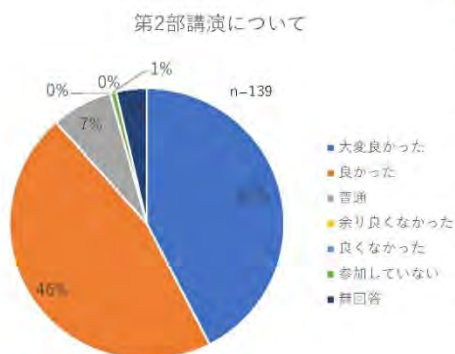


<講演内容に関する意見>

- コロナ禍の現状を見極めて、支援できる対策を考え、工夫していかなければと実感した。今後も続くコロナ感染は、生活する上では受け入れていかなければならず、その上で、どうするかが大切だと思った。音声聞き取りがなかったのが、残念だった。
- コロナ禍の今、高齢者の現状について、感染の拡大や受診控えなどの問題が表面化していることを改めて実感した。
- 内容が興味深い内容だったので満足した時間だった。コロナの中でどのように生活を送っていくか考えていく機会となった。
- 日本と外国の違いを知る事ができ参考になった。
- 資料がよくまとめられているので、もう一度読み返してみます。

6

研修生の声：第2部講演について

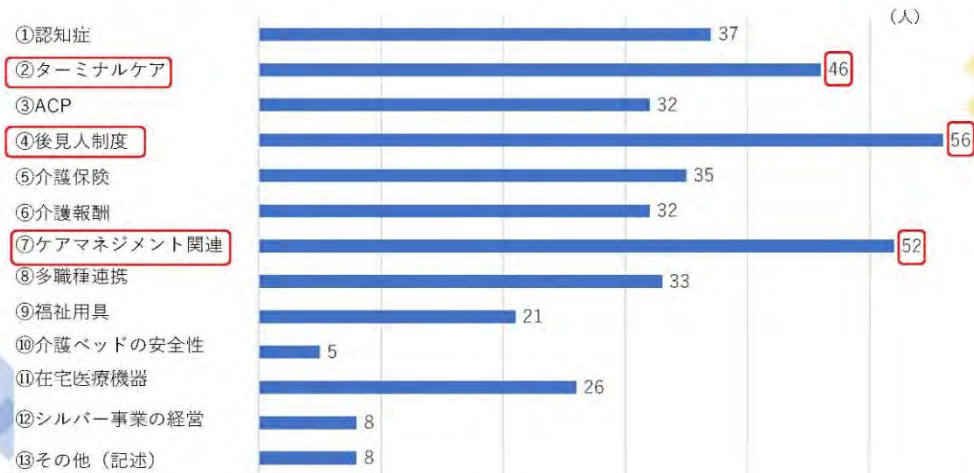


<講演内容に関する意見>

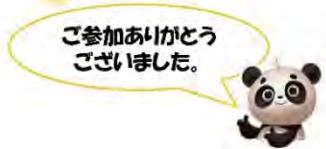
- 知らない間に記載要項が変わっていた部分が多かった。
- 意向を踏まえた課題分析の結果の記載については、ここ1年間もややと思考錯誤し研修会にも参加していたが、今後に生かし参考にさせていただきたい。
- 宮城県の研修との違いがあり迷う。統一した考え方や県独自の考え方があってほしいが、迷わないようにしてほしい。
- サービス計画書の記載方法、特に第1表の課題の捉え方は参考になった。
- 居宅サービスについて改めて学ぶ事ができた。
- おもしろかった。勉強になった。
- 仕事の内容の理解、再確認ができた。
- 実践的なお話しだったが、もう少し具体的にお話ししていただければと思った。
- 成澤先生のお話はいつも気づきや認識の再考を促すことを誘発します。

7

今後希望する研修テーマ（複数回答）



研修の振り返り

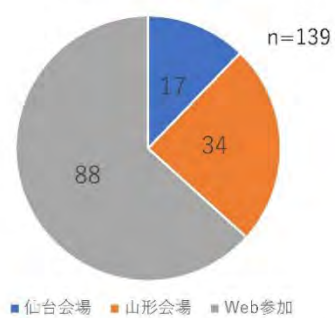


- 財団として初めて2県での会場参加とWeb参加を併用したハイブリッド開催の研修を実施しました。
- Webを併用したことで多くのケアマネージャーさんに参加していただくことができました。Webを使用すると会場まで来る必要なくなり、過疎地域のケアマネージャーさんも参加が容易になると思います。今後の研修には活用していきたいです。
- Webでは音声の聞こえづらさが課題となりました。テストを重ねても、本番でうまくいかないと何なりません。音声については講師にテスト参加していただく等、準備を万全にしたいと考えます。
- 先生方への質問を拝見すると、総論的な内容から各論的な内容（実務現場で活かせる内容）を求めていらっしゃる意見も多いため、今後、テーマをシリーズ化する等、検討していきたいと思えます。
- 今後希望する研修テーマとしては「後見人制度」が一番多く選択されていました。認知症の独居高齢者が増加している中で、意思決定や財産の管理をどうするか等が喫緊の課題になっていることがうかがえます。今後の研修テーマとして検討していきたいと思えます。

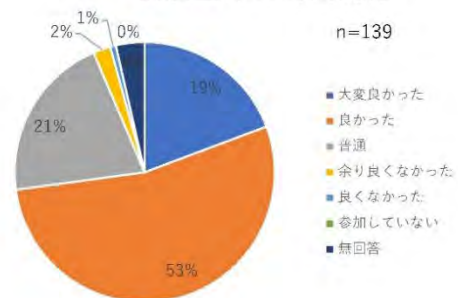
研修終了後アンケート結果

参加者数：287人（予測値） アンケート回答数：139人 アンケート回答率：48.4%（推定値）

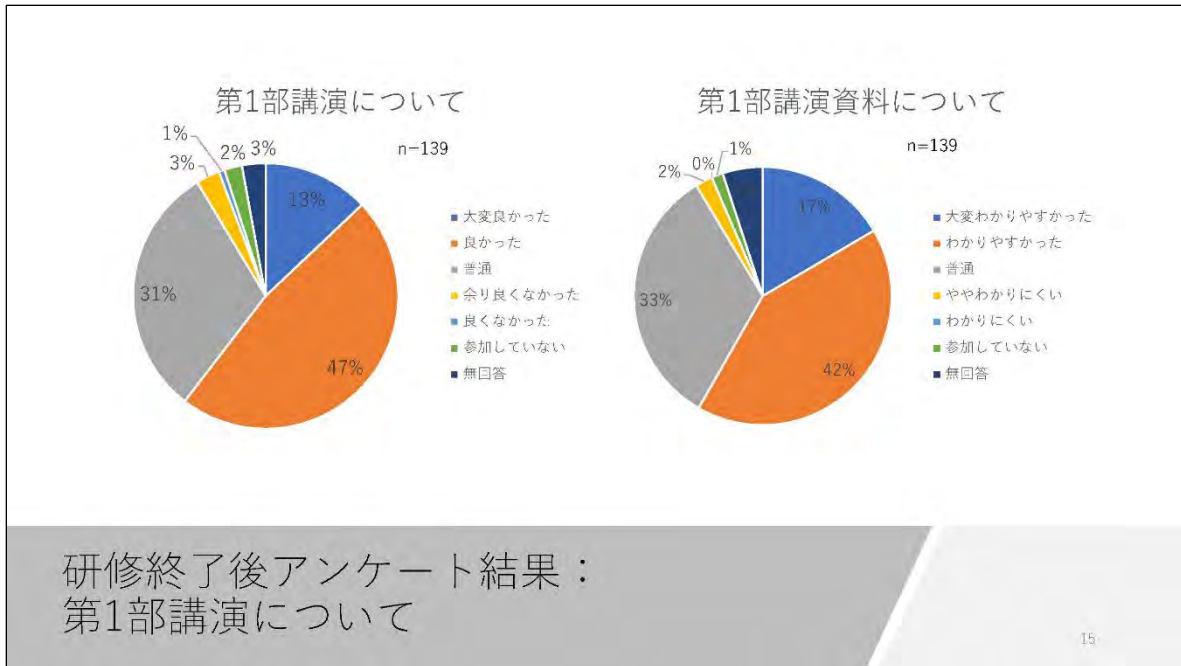
参加方法（人）



講演全体の時間配分



研修終了後アンケート結果



研修終了後アンケート結果：第1部講演について

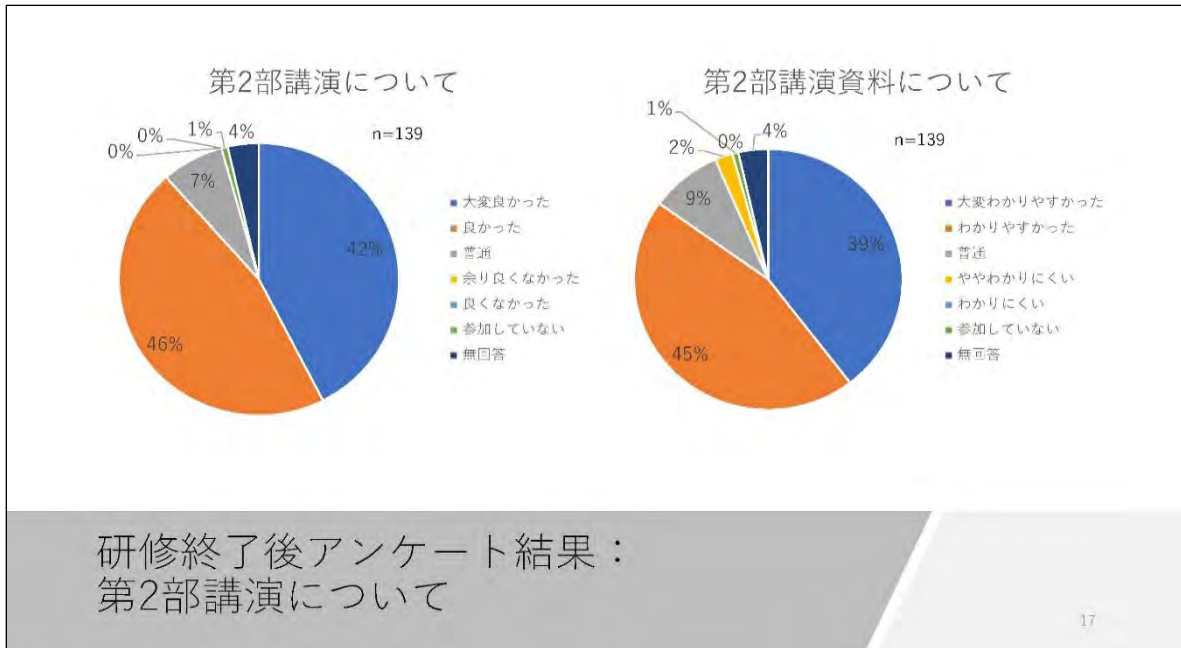
<講演内容に関する意見>

- コロナ禍の現状を見極めて、支援できる対策を考え、工夫していかなければと実感した。今後も続くコロナ感染は、生活する上では受け入れていかなければならず、その上で、どうするかが大切だと思った。音声聞き取りが難しかったのが、残念です。
- コロナ禍の今、高齢者の現状について、感染の拡大や受診控えなどの問題が表面化していることを改めて実感した。
- 内容が興味深い内容だったので満足した時間だった。コロナの中でどのように生活を送っていかを考えていく機会となった。
- 日本と外国の違いを知る事ができ参考になった。
- 資料がよくまとめられているので、もう一度読み返してみます。

<音声に関する意見>

- 音声聞き取りが難しかった（複数人）
- 聞き取れない内容が多かった。
- きこえづらくて、ききとりにくく、内容があまりわからなかった
- 声がとても聞きとりづらく集中できなかった。ミュートにしている方がいたようで、話し声が気になった。
- web参加でしたが、中々聞き取りし難く、内容把握しにくかった。
- 主催者のマイクがオンになっていたためか、千葉先生のお話が聞こえずらく残念だった。

16



研修終了後アンケート結果：第2部講演について

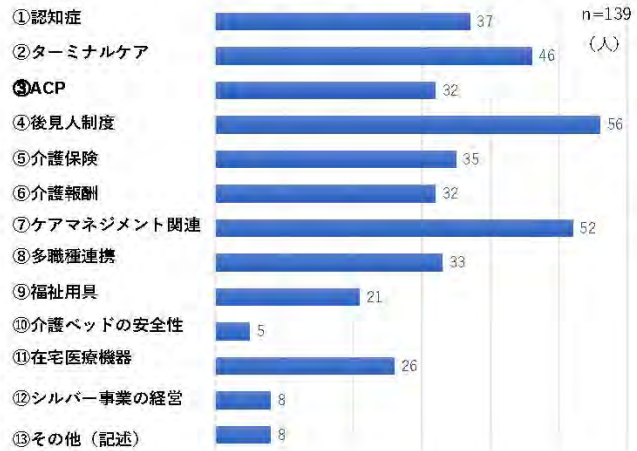
<講演内容に関する意見>

- 知らない間に記載要項が変わっていた部分が多かった。
- 意向を踏まえた課題分析の結果の記載については、ここ1年間もやもやと思え、誤り研修会にも参加していたが、今後に生かし参考にさせていただきます。
- 宮城県の研修との違いがあり迷う。統一した考え方や県独自の考え方があると思うが、迷わないようにしてほしい。
- サービス計画書の記載方法、特に第1表の課題の捉え方は参考になった。
- 居宅サービスについて改めて学ぶ事ができた。
- おもしろかったです。勉強になった。
- 仕事の内容の理解、再確認ができた。ありがとうございました。
- 実践的なお話だったが、もう少し具体的にお話ししていただければと思った。
- 成澤先生のお話はいつも気づきや認識の再考を促すことを誘発します。またお話を拝聴したいと思う。
- 資料をもう一度読み返して理解を深める。

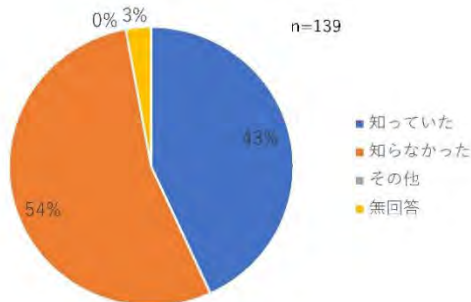
18

研修終了後
アンケート結果：
今後の希望する
研修テーマ

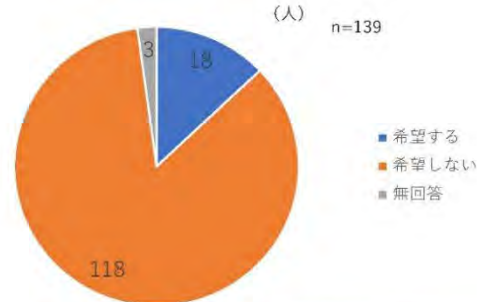
今後の希望する研修テーマ（複数回答）



「ふれあいの輪」の認知度



「ふれあいの輪」購読希望の有無

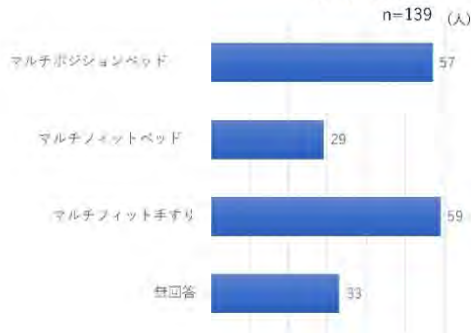


無料でお届けできます。
ご希望の方は財団まで
ご連絡ください。



研修終了後アンケート結果：
財団季刊誌「ふれあいの輪」について

興味がある・利用者様に紹介したい商品
(複数回答)



関心のある商品・福祉用具

車いす
片麻痺（右でも左でも）の方にタイルス調理補助用具などあれば教えて頂ければと思う。
体位交換用クッション等を充実させてほしい。サイズ、素材など、他のレンタル会社より少ないのが残念です。ベッドの会社なので、安楽に寝ること、じょくそう予防も充実されたらもっと良いのと思う。以前枕を購入したが、良かった。
シルバーカー、リフト、特殊寝台、電動車いす、排泄予測感知機器
杖や入浴用品など改良される機会が多い用品の現状
マイクロクライメイトビッグセルアイズ
超低床フローベッドは、これまでも目にしてきた。利用者さんの世代が変わり、ベッドに抵抗のある方は少なくなったが、それでもまだ布団が良い(ベッドが適当と思われる方でも)という方はいる。そのような方には低床ベッドは有効かと思われる。今後の更なる改良と展開に期待する。

研修終了後アンケート結果：
フランスベッドの商品について

ハ. 支援助成事業【公3:在宅ケアの対象となる高齢者や難病の子どもたち等への組織に対する支援助成事業】

在宅ケア推進の一環として在宅ケアに関する研究および事業に対する助成並びに在宅ケアに関する調査研究および情報提供を行い、もって国民医療の向上に寄与することを目的としております。

「応募要綱」

1. 支援助成の主旨

公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団は、在宅ケアの対象となる高齢者や難病の子どもたち等へ地域に根差した療養生活の質の向上と支援体制の醸成を図る目的で支援活動をしている団体に対し、支援助成を行うものとし、令和3年度は次の方針で支援助成を行います。

2. 助成対象となる事業

○助成の対象

- (1) 高齢者が健康で安心に加え、生きがいのある人生を送るための創意工夫を生かした自発的な事業又は高齢者福祉の増進を目的とした先駆的、実践的なモデル事業を対象として支援助成を行います。
- (2) 難病の子ども達に対し、地域社会で充実した生活が送れる支援事業、在宅生活に適した啓発活動事業を実施している団体に対し支援助成を行います。
- (3) 難病、がん末期等の疾患のある要介護高齢者や重度心身障害児・者は、感染予防のために通所サービス等の利用が困難となっています。このような状況の中、利用者の安全を確保しつつ医療介護福祉と連携し、利用者の在宅療養継続に尽力しているのが療養通所介護です。新型コロナウイルス感染症予防活動分野として、療養通所介護事業所に対し支援助成を行います。

○支援助成のカテゴリー

(1) 高齢者福祉分野

- ・地域やコミュニティの高齢者を元気にする活動
- ・高齢者の生きがいや、やりがいをサポートする支援活動
- ・健康で生きいきと暮らせる基盤づくりを推進する活動
- ・高齢者が知識・技術・経験を活かして実施する活動

(2) 難病の子ども福祉分野

- ・難病の子ども達の家族を対象とした相談活動
- ・難病の子ども達の家族同士の交流の場を提供するふれあい活動
- ・講演会、研修会などで難病の子ども達を理解するための活動
- ・難病の子ども達や患者会・家族会が主体的となって実施する活動

(3) 新型コロナウイルス感染症予防対策活動分野

- ・高齢者や難病、がん末期等の疾患のある要介護高齢者や重度心身障害児・者の感染予防のための活動
- ・通所サービス等利用者の在宅療養継続に尽力している療養通所介護の活動
- ・新型コロナウイルス感染症予防活動分野として、療養通所介護事業所の活動

3. 支援助成事業

令和4年度事業としては、上記(1)高齢者福祉分野への助成を行いました。

① 高齢者福祉分野(1件)

地域	所属施設・団体名	代表者名	役職名	テーマ
東京都	健康生きがい学会	辻 哲夫	会長	健康生きがい学会第12回大会
支援助成金額			450,000円	

二. 調査、研究委託事業 [公4: 在宅ケアに必要とする医療や看護、介護の総合的な 資質の向上を図る目的のもとに調査、研究の実施事業]

在宅ケアに関する調査、研究並びに情報の収集と課題分析を整理し、高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることが望ましいと考えます。そのためには、医療、看護、介護にかかわる専門職の役割は重要であり、いかに質的なケアができるかが大きな課題でもあります。利用者の目線から医療、看護、介護関係者の居宅サービスがどのように捉えているかの実態調査を行い、課題抽出しその改善策として何が必要であるかを明らかにすることで、専門職に携わる関係者に情報提供することで質的な向上を図ればなお一層国民一人一人の生活基盤が築けることで豊かな社会が望めるものと確信しております。

(調査、研究委託事業の流れ)

1. 期初に本年度の財団の実施する調査、研究のあり方検討委員会を立ち上げ、計画の立案を策定いたします。
2. 調査、研究を行うための財源並びに必要とする財産としては、公益目的事業の区分会計処理を行い、基本財産の運用益もしくは寄付金による共通費から支出し財源を確保してまいります。
3. 調査、研究の成果の公表としては、年度に調査、研究が終了した段階で報告書を作成し、関係機関への送付を行います。

(令和4年度の調査研究委託事業内容)

在宅ケアに関する調査・研究並びに情報の収集及び提供を行う事業(以下「調査研究委託事業」という。)を実施いたします。

調査研究委託事業は、次のとおりとする。

- 一 福祉用具の活用・効果に関する調査・研究の委託事業
- 二 介護・療養事業所における労働環境問題に対する調査・研究の委託事業
- 三 介護者の労力軽減を図るためのプランニングの実態調査・研究の委託事業
- 四 その他、財団の事業に関する調査・研究の委託事業

(2022年度調査、研究事業のテーマ)二班での実施

一班	調査研究事業テーマ	「マルチポジションベッド導入効果の検証」患者・職員それぞれの視点から効果を検証する。
	目的・意義	マルチポジションベッドは「ベッドポジション」(寝姿勢)、「リクライニングポジション」(長座位)、「シーティングポジション」(端座位)、「スタンディングポジション」(立ち上がり)という4つのポジションを取ることができるベッドである。各ポジションを様々な場面ごとに活用することで、リハビリ支援、誤嚥リスク軽減等のメリットを生むことが可能と考えられる。病院において試験的に導入し、患者に対しては自立支援や活動負担の軽減、職員に対しては介護負担軽減の面から効果を検証する。
	委託契約者	医療法人社団永生会 永生病院 看護部長 安藝 佐香江
調査研究期間		令和4年1月 1 日から令和5年3月末日まで
調査委託事業費		500, 000円 ➡期間が短縮のため、減額を行った。

二班	調査研究事業テーマ	ICT 及び自立支援ベッド等福祉用具の活用による介護負担軽減評価
	目的・意義	ICTと様々な福祉用具のイノベーションを最大限活用し、病院入院患者や有料老人ホーム等施設入所者の自立を支援。看護職や介護職の精神的、身体的負担の軽減により、ゆとりをもち生き活きた看護・介護現場を創造し、未来ある日本独自の介護・看護システムの構築を目指すものである。
	委託契約者	有限会社望月彬也リハデザイン代表取締役 望月彬也
研究期間		令和4年1月 1 日から令和5年3月末日まで
調査委託事業費用		500, 000円 ➡期間が短縮のため、減額を行った。

ホ.海外調査、研究、研修事業〔公5:海外の先進医療や福祉機器の先端技術の革新から見る総合的な視点から、視察、調査、研究、研修を実地し、国内への啓発事業〕

1. 海外研修計画について

- ①医療機関が実施している海外研修への参加
 - ②海外の認知症対策への取り組みの視察、調査の実施
 - ③医療機器・福祉用具の展示会並びに取り組みに関する状況の把握、調査
 - ④海外における高齢者対策へのサポート事業(福祉用具の専門職の人材育成研修会等の実施)
- イ) 中華人民共和国香港特別行政区において福祉用具相談員人材育成研修の開催を予定している。
- ロ、中華人民共和国浙江省の浙江省老年サービス協会とのコラボで認知症予防対策のセミナー開催予定

●上記イ)、ロ)の海外研修事業にいたっては、現行、新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外渡航が禁止されている状況化であり、国の渡航許可が解除される状況を見ながら判断していく事とする。

[2] 収益目的事業

〔収1:在宅ケアに関連した、医療、介護、看護分野のニーズを捉え小冊子の発行事業〕

1) 季刊誌「ふれあいの輪」を収益事業として、会計区分している。

高齢者が安心して在宅生活を送り、住み慣れた我が家で最期を迎えることは、誰もが望むところである。そのためには社会資源を活用したネットワークの構築と情報の共有化が不可欠である。季刊誌「ふれあいの輪」の配布先は、医療、看護、介護を含む幅広い分野の皆様に配布を行っている。

- 1. 医療、看護、介護の専門分野の方に執筆をお願いして発行し、社会の動向を踏まえた最新情報を掲載し一般国民の皆様に提供
 - ・今年度、秋以降号毎にテーマを決め、そのテーマに関連した内容を構成
 - ・今年度より、介護支援専門員のケアマネジメント力の向上につながるよう、「在宅ケア・ケース事例」の連載を開始
- 2. 1年4回の発行(春、夏、秋、冬)1回の発行部数10,760部
※中間報告では、夏号、秋号の発行になります。

No.205 (夏号) 2022.7.1 発行	・トップインタビュー 介護医療院は介護のハイブリッド。病院に附属する在宅施設を考えている。 社会医療法人若竹会 社会福祉法人若竹会理事長
----------------------------	--

	<p>つくばセントラル病院名誉院長 竹島 徹 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> •介護最前線 <ul style="list-style-type: none"> 最期に寄り添う見取り犬の奇跡 社会福祉法人心の会 理事長 特別養護老人ホーム さくらの里山科 施設長 若山 三千彦 氏 •新しい高齢者ケアの取り組み <ul style="list-style-type: none"> 高齢者と学生の同居を支援する古都発住環境マッチングシステムとは 京都ソリデール事業(京都府・建設交通住宅課) •在宅ケア ケース事例 <ul style="list-style-type: none"> 複数・多職種のサービスを連携しながら在宅を支援する (監修)国際医療福祉大学大学院 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 教授 石山 麗子 氏 •福祉用具の活用事例 <ul style="list-style-type: none"> いろんな手すりを組み合わせて在宅での店頭を未然に防ぐ マルチフィットてすりシリーズ •(公財)フランスベッド財団令和4年度(第33回)助成事業の採用案件決定
<p>No.206 (秋号) テーマ:認知症 2022.10.1 発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> •トピックインタビュー <ul style="list-style-type: none"> 松戸プロジェクトの命題は、「介護予防」という社会課題を、都市資源を使って解決することにあった。 千葉大学 予防医学センター社会予防医学研究部門 教授 近藤 克典 氏 •介護最前線 <ul style="list-style-type: none"> 認知症になっても命輝く未来を目指し2025年大阪・関西万博で世界からのお客様を100万羽の折り鶴で迎えよう ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会 総合プロデューサー・介護支援専門員 森 安美 氏 •知っとく！ <ul style="list-style-type: none"> 軽度認知障害(MCI)は認知症ではない。もとに戻る可能性もある。 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 副センター長 佐治 直樹 氏 •ズームアップひと <ul style="list-style-type: none"> 特別養護老人ホーム駒場苑

	<p style="text-align: center;">施設長 坂野 悠己 氏</p> <p>施設や職員の都合で当たり前のように行われている介護を変えたかった</p> <p>・在宅ケア ケース事例</p> <p style="text-align: center;">在宅が難しくなった認知症利用者の生活習慣を大切に 取り組んだ事例</p> <p style="text-align: center;">〈監修〉国際医療福祉大学大学院教授 日本ケアマネジメント学会理事長 白澤 政和 氏</p> <p>・研究・事業助成採用事例 2021年度(第32回)/高齢者や障害者(児)の在宅推進関連事業</p> <p>「こどもホスピス」実現の第一歩として、医療機関内に「ドリームルーム」を開設</p> <p>NPO 法人東京こどもホスピスプロジェクト 佐藤 良絵 代表</p> <p>・福祉用具の活用事例</p> <p>認知症で夜が心配な人に、睡眠を支援する福祉用具がある。 ウェイテッド Hug(ハグ)ふとん</p>
<p>No.207(号) 2023.1.1 発行</p>	<p>・トップインタビュー</p> <p>発がんや老化は「トロメア」と深い関係にあることが分かってきました</p> <p style="text-align: center;">東京都健康長寿医療センター研究所 高齢者がん研究グループ 研究員 野中 敬介 氏</p> <p>・介護最前線</p> <p>耳にインカム、介護ソフトは自社開発申し送りの為の会議は完全廃止した</p> <p style="text-align: center;">社会福祉法人善幸会 最高執行責任者兼統括施設局長 宮本 隆史 氏</p> <p>・知っとく</p> <p>クッキングリハビリ 料理はリハビリになる五感と筋肉を働かせるから</p> <p style="text-align: center;">医療法人社団誠和会 作業療法士 丸田 淳司 氏</p> <p>・在宅ケア ケース事例</p> <p>本人のやる気を引き出すことで、リハビリ効果は最大限になる</p> <p style="text-align: center;">〈監修〉国際医療福祉大学大学院 先進的ケア・ネットワーク研究分野 教授 石山 麗子 氏</p> <p>・研究・事業助成 採用事例</p>

	<p>学生が主体となり、地域住民への「がん」啓発活動を実施 泉佐野泉南医師会看護専門学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の活用事例 介護予防教室で活躍中 姿勢を改善、身体も心穏やかに トランスソリューション ミストラル健康センター管理者・介護福祉士 山口 裕子 氏 「令和4年度第1回リフトリーダー養成研修」in 札幌 報告 「2022年度介護支援専門員研修」in 宮城&山形 報告
<p>No.208号 2023. 4. 1 発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> トップインタビュー 福祉用具に限らず、広く高齢者の生活全般に目を配り、 老老介護を補う仕事がしたい フランスベッド株式会社 代表取締役社長 (公財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成 財団 理事長 池田 茂 氏 介護最前線 広尾の超一等地に立つ日本赤十字社直轄の介護保険 施設を訪ねて 日本赤十字社総合福祉センター特別養護老人ホーム レクロス広尾 看護サービス課長 園部 正寿 氏 知っとく ノーリフティングケア実は、人口減少と高齢化が進む高知 県で先行している ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表理事 日本ノーリフト協会理事 下元 佳子 氏 在宅ケア ケース事例 介護ロボットや ICT を活用することで夜間訪問を減らし睡 眠の質を確保する (監修)国際医療福祉大学大学院教授 日本ケアマネジメント学会理事長 白澤 政和 氏 ズームアップひと すべての人が、最期に「愛されている」と感じて旅立てる 社会をつくりたい 日本社団法人 日本看取り士会 会長 柴田 久美子氏 トピックス 福祉用具の活用事例

	<p>レンタル福祉用具はなぜいつも新品同様なのかメンテナ ンスの舞台裏をのぞいてみた</p> <p>フランスベッドメディカルサービス株式会社</p> <p>代表取締役社長 野口 幹夫 氏</p> <p>・(公財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財 団 年間行事予定(2023年度)</p>
--	---

- 3. 配布先については、購入事業者(フランスベッド(株)全国93箇所の営業所)へ送付し、各医療、看護、介護関連施設並びに一般の方々へ配布を行っております。

2. 管理部門

令和4年度の当財団管理部門の概要につきましては、以下の通り報告いたします。

[1] 許認可事項

なし

[2] 会議開催状況

理事会、評議員会、企画委員会等の開催状況は次の通りです。

(1) 理事会

第32回定時理事会(令和4年5月27日)Webハイブリット会議

- 第1号議案 令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)
事業報告及び決算承認の件
 - 第2号議員 定時評議員会の招集通知について
 - 第3号議案 保有株式の権利行使について
 - 第4号議案 令和4年度研究事業助成採用について
- その他報告事項

1. 基本財産運用見直しについて
 - ① 令和4年度基本財産の運用方針について
 - ② 基本財産運用商品購入の件

第33回定時理事会中間報告(令和4年10月21日)Webハイブリット会議

- 報告事項Ⅰ－Ⅰ 令和4年度(令和4年4月1日～令和4年9月30日)
事業報告の件
- 報告事項Ⅰ－Ⅱ 令和4年度(令和4年4月1日～令和4年9月30日)
財務諸表の件
- 報告事項Ⅱ
 - 1 令和4年10月～令和5年3月の事業計画
 - 2 教育研修事業計画
 - 3 出版事業(ふれあいの輪)季刊誌発行
 - 4 財団設立35周年記念事業計画

第34回定時理事会(令和5年2月6日)Web ハイブリット会議

- 第1号議案 令和5年度事業計画
- 第2号議案 令和5年度収支予算書
- 第3号議案 変更認定申請について
- 第4号議案 定款変更について
- 第5号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて
- 第6号議案 定時評議員会の招集通知の件
- 第7号議案 選考委員の選任について
- その他報告事項
 - ①令和5年度行事予定

(2)評議員会

第22回定時評議員会(令和4年6月15日) Web ハイブリット会議

- 報告事項 1. 令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)
事業報告の報告
- 決議事項
- 第1号議案 令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)
計算書類等承認の件・監事報告
- 第2号議案 役員(理事・監事)の選任の件
- 第3号議案 役員(評議員)の選任の件
- 報告事項:
 - 1. 保有株式の権利行使について
 - 2. 令和4年度研究事業助成採用について
 - 3. 令和4年度の基本財産運用方針について

第23回定時評議員会(令和5年2月24日)Web ハイブリット会議

- 第1号議案 令和5年度事業計画
- 第2号議案 令和5年度収支予算書
- 第3号議案 変更認定申請について
- 第4号議案 定款変更申請について
- 第5号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて
- その他報告事項
 - ①令和5年度行事予定について
 - ②選考委員の選任について
 - ③評議員の任期満了に伴う、評議員改選について

(3)企画編集会議開催

- 第1回 季刊誌「ふれあいの輪」秋号企画編集会議(令和4年7月29日)
 - イ) 第206号の掲載内容の検討会
 - ロ) 各頁の進捗状況報告会

第2回 季刊誌「ふれあいの輪」冬号企画編集会議(令和4年10月17日)

イ) 第207号の掲載内容の検討会

ロ) 各頁の進捗状況報告会

第3回 季刊誌「ふれあいの輪」春号企画編集会議(令和5年1月17日)

イ) 第208号の掲載内容の検討会

ロ) 各頁の進捗状況報告会

[3]内閣府提出資料

(1)事業報告等に係わる提出書

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第22条第1項の規程により提出。

・提出日:令和4年6月29日(水)

・提出先:内閣府大臣官房公益法人行政担当

・提出資料:財産目録、役員等名簿、報酬等の支給の基準を記載した書類、計算書類等

(2)変更認定申請書に係る提出書

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第12条第1項の規定により提出

・提出日:令和5年3月14日(火)

・提出先:内閣府大臣官房公益法人行政担当

・提出資料:変更認定申請書、公益目的事業の変更、法人の財務に関する公益認定の基準に係る書類他

(3)事業計画に係る提出書

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第22条第1項の規程により提出。

・提出日:令和5年3月24日(水)

・提出先:内閣府大臣官房公益法人行政担当

・提出資料:令和5年度事業計画、令和5年度全体予算、定時理事会議事録他

3. その他報告事項

[1] インボイス制度への取組

- インボイス制度(請求書の記載要件:適格請求書)
 - ・インボイス制度とは「適格請求書の記載要件」のこと
 - ➡国税庁登録「適格請求書事業者」が発行、必要事項が記載された請求書「適格請求書」

 - インボイス制度(売り手側作成の適正化)
 - ・インボイス制度の観点
 - 売り手側の請求書作成:インボイス交付及び写し保存義務あり
 - ・インボイス制度のポイント「売り手の義務」
 - 適格請求書発行、記載要件充足

 - 売り手の立場
 - ・「交付相手の得意先に迷惑をかけない」
 - ・「適格請求発行事業者に交付・保存義務あり」
 - ※適格請求書事業者の登録申請
 - ・適格請求書の発行(インボイスの発行) ➡受け取り側で仕入税額控除
 - ・2023年10月以降は適格請求書発行事業者が発行する請求書のみ仕入税額控除可能
 - ・適格請求書発行事業者の登録申請書を所轄税務署へ直接又は電子提出
 - ・2023年10月以降の発行請求書等に登録番号(T0000000000)を記載
- 当財団では令和4年10月末日に適格請求書発行事業者の登録申請書を提出

[2] DX 推進に向けた取り組み

ステップ1

研究・事業ボランティア活動助成におけるエントリシートのシステム化

- ・運用方法の見直し
- ・ホームページの改修依頼
- ・Quick Creator の導入及びシステム作成

ステップ2

申請書の一元管理及び電帳法への対応

- ・ドキュメント管理システムの導入及び環境作成
- ・電帳法の書類の洗い出し及びシステムへの登録・保管

ステップ3

- ・申請書の提出方法の見直し
- ・選考委員会とのやり取り見直し
- ・電子契約サービスの導入

[3] 熊本地震震災義援金募金額

※(管理口座名義：公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団
東日本大震災義援金口にて別会計口座の管理)

(単位:円)

研修会〔講演会〕	募金額	
前期繰越金	581,109	
利息	2	
寄附金(AAR ジャパン)	▲200,000	トルコ大地震 支援寄附金
令和5年3月31日現在 計	581,111	